Nara National Museum

奈良国立博物館だより

第91号

平成26年 10・11・12月

人勝残欠雑張（北倉）－天皇皇后両陛下傘寿記念 第66回 正倉院展より－

特別展
天皇皇后両陛下傘寿記念
第66回
正倉院展
10月24日（金）～
11月12日（水）
東・西新館

特別陳列
おん祭と春日信仰の美術
12月9日（火）～
平成27年1月18日（日）
東新館

特集展示
新たに修理された文化財
12月23日（火・祝）～
平成27年1月18日（日）
西新館

名品展
珠玉の仏教美術
12月9日（火）～
平成27年3月15日（日）
西新館

中国古代青銅器
通期開催・青銅器館

天皇皇后両陛下傘寿記念

第66回 正倉院展

10月24日(金)～11月12日(水)

本年の正倉院展は天皇皇后両陛下の傘寿を記念し、宝庫を代表する宝物が出陳されます。また聖武天皇のお暮らしぶりがうかがわれる宝物や、大刀や弓箭などの武器・武具がまとまって出陳される点に特色があります。

「樹下美人図」として高名な鳥毛立女屏風は社会科の教科書などで誰もが一度は目にしたことがある宝物です。しかしながら、今回の公開は十五年ぶりのことで、実物をみる機会が決して多くないことがわかります。写真ではない「本物」にふれることができるのも正倉院展ならではの魅力です。

聖武天皇のご遺愛品では、ひじつきとして使われた紫檀木画挾軾やその上敷きとして使われた褥、寝台であった御床とそのマットレスや敷布団として使われた一連の品々、大仏開眼会で履かれた衲御礼履など、実際に聖武天皇のお体に接したであろう宝物の多いのが注目されます。また、聖武天皇ご所持品との説もある梵網経も格調高いひと品で、晩年出家された聖武天皇のお暮らしの一端がうかがえます。

宝庫には当初光明皇后によって献納された多数の武器・武具が納められていましたが、天平宝字八年（七六四）の藤原仲麻呂（恵美押勝）の乱の際に宝庫から出され、ほとんどが戻らなかったようです。本年はそのような献納品の武器・武具を想い起こさせる大刀、弓、箭、胡禄（矢入れ）、そして類例のない武器である手鉾などが出陳されます。今年は天平の「武」の世界にもご注目下さい。

⑤

③

④

②

①

⑧

⑦

⑥

①手鉾(中倉)
②黄金荘大刀(中倉)
③紫檀木画挾軾(北倉)
④御床(北倉)
⑤鳥毛立女屏風 第四扇(北倉)
⑥衲御礼履(南倉)
⑦漆葛胡禄(中倉)
⑧梵網経(中倉)部分

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

12月9日(火)～平成27年1月18日(日)

春日若宮おん祭は、時代衣装を着た大勢の人々が奈良の都大路を練り歩く年中行事で知られています。平安時代の保延二年(一一三六)九月十七日に始まったこの祭礼は、その後祭日が変わることはあっても廃絶することなく現代まで続いており、今年の十二月十七日で八七九回を迎えます。

当館では平成十八年よりおん祭の行われる季節に合わせ、毎年テーマを変えながら展示を通じておん祭の一端を紹介してきました。今年は祭礼において神威を高める調度品「威儀物(いぎもの)」について特集します。「千切台(ちきりだい)」や「盃台(さかづきだい)」というおん祭特有の威儀物のかたちや歴史、匠の仕事などを紹介します。

ご祭礼の参列、年末年始のご参拝などにあわせてご観覧下さい。

※おん祭お渡り式の日〔十二月十七日〕はどなたでも無料でご覧いただけます。

重要文化財 春日本迹曼荼羅(奈良・寶山寺)

千切台(奈良・春日大社)

春日若宮御祭礼絵巻〔部分〕(奈良・春日大社)

鹿島立神影図〔部分〕(当館)

特集展示

新たに修理された文化財

12月23日(火・祝)～平成27年1月18日(日)

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。奈良国立博物館では、これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、絵画・彫刻・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品(館蔵品・寄託品)について毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示は、近年修理を受けた収蔵品の中から選りすぐった作品を展示公開し、あわせてその修理内容をパネルで紹介するものです。この展示を通じて、文化財修理に関する博物館の取り組みについて、関心と理解を一層深めていただければ幸いです。

陶棺〔奈良・西大寺赤田出土〕の修理風景

なら仏像館休館につき
特別無料開放！

庭園・茶室「八窓庵」

平成26年9月17日(水)～10月22日(水)
平成26年11月13日(木)～12月7日(日)
※最終入場15：30、終了16：00
※天候の状況およびイベント開催等のため中止することがあります。

仏教美術資料研究センター「関野ホール」

平成26年9月17日(水)～10月22日(水)
平成26年11月13日(木)～12月7日(日)
※最終入場15：30、終了16：00
※イベント開催等のため中止することがあります。

地下回廊の催し物(無料)

特別企画 正倉院展ポスター 昭和22-昭和63

平成26年9月17日(水)～11月30日(日)

仏像写真展 大和の仏たち -奈良博写真技師の眼-

平成26年12月2日(火)～平成28年3月31日(木)

話題

なら仏像館（旧帝国奈良博物館本館）と日本近代建築の誕生

宮崎　幹子（当館学芸部資料室長）

なら仏像館（重要文化財 旧帝国奈良博物館本館）の保存改修工事が十月からはじまる。明治二十七年（一八九四）の竣工から百二十年を数えるこの建物は、いまなお現役で文化財の保存と公開という開館以来の使命を果たし、近年は仏像彫刻の専門館として多くの仏像ファンを迎えている。さすがに長年の風雪の影響は避けがたく、屋根葺材の傷みや外壁の汚れが目立つようになったため、この度工事が実施される運びとなり、同時に陳列ケースや照明についても大幅にリニューアルすることが決まった。休館中は館蔵・寄託の仏像の多くが観覧できなくなるが（一部は西新館で開催する名品展で展示）、この貴重な文化遺産をながく後世に伝えるために、しばらくの間の休館をご理解いただきたい（工事は平成二十八年三月末までの予定）。

さて、この建物が明治時代を代表する建築家、片山東熊の設計によることは広く知られているが、規模の小ささと奈良という立地の影響か、近代建築としての注目度はこれまで決して高くはなかったように思われる。ところが現存する同時代の建築をながめると、近代建築史上極めて重要な作例であることに気がつく。必ずしも充分な歴史的評価が与えられているとはいえないこの建物に、改めて光をあててみたい。

わが国には、古来より幾多の修繕や改修を経て伝わった優れた木造建造物が存在するが、それらは大工棟梁ら技術者たちによって建てられたもので、造営体制は、設計監理と施工とを区分する現在とは異なっていた。従って今日的な意味での「建築家」は、最初に体系的な建築学教育を受けた工部大学校造家学科（東京大学工学部建築学科の前身）第一期卒業生四名をもってはじまりとされる。その中の一人が片山であった。この四名による現存最古の建築は、日本赤十字社中央病院病棟（片山東熊設計　明治二十三年〈一八九〇〉）であるが、現在は博物館明治村に移されてもとの機能は失っている。続く水準原点標庫（佐立七次郎設計　明治二十四年〈一八九一〉）は、原所在地に建つものの、総高四メートルほどの小型建造物である。これらに次いで古く、移築や改築もなく当初の機能を引き継いでいるなら仏像館こそ、日本人建築家による最初期の本格的な西洋建築の遺例と呼ぶにふさわしく、近代日本が西洋建築に求めたもの、そして明治時代を通じてそれがどのように展開していったのかを、この建物を起点にみていくことができる。

建設当時は濃尾地震（明治二十四年）の直後で、堅牢さが第一の課題であった。そのためクリーム色の漆喰で化粧された壁の内部は、実は厚さ三尺（約九〇センチメートル）に積まれた煉瓦で構成されている。木造の仏殿から煉瓦造の西洋建築へ。信仰の対象である仏像に文化財としての意義が見出され、近代的な保存の第一歩がしるされた、まさに記念碑的な存在なのである。

そして外観は、当時ヨーロッパを中心に世界の建築界を席巻していた歴史主義の様式で飾られた。ギリシャ、ローマ、ゴシック、ルネッサンス、そしてバロックといった過去の様式をあらたな設計に取り入れるこの手法は、博物館や議事堂、銀行、劇場といった国家の威信を表象する公共建築に多く用いられた。日本で西洋建築学の教授が開始された当時、政府が導入を試みたのも、こうした最新の建築であった。

大学校から工部省に入省した片山は、明治十五年（一八八二）に山県有朋らとともにヨーロッパを巡行し、現地で西洋建築をはじめて目の当たりにしている。この時期のネオ・バロック建築の傑作とされるパリ・オペラ座（ガルニエ宮・一八七五年）は、なら仏像館によく似たコリント式複柱や櫛形ペディメント、そしてさまざまなメダリオンなど、装飾的なモチーフで満ちあふれている。大学校卒業後まもなくして華麗な西洋建築を眼前にする機会を得た若き建築家、片山は、新鮮な驚きと感動をもってこれらを受けとめたことであろう。そして帰国後に宮内省に移って手がけた建築設計にも大きな影響を受けたに違いない。

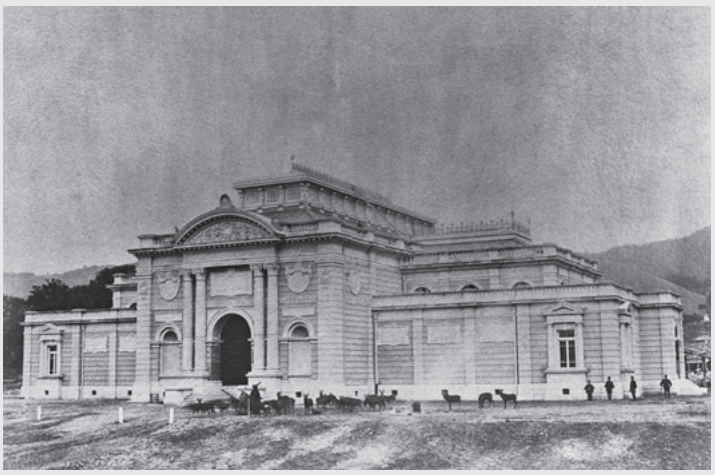
興味深いのは、なら仏像館の外観が装飾的である一方で、ニッチ（正面アーチの両脇に設えられた壁龕）や壁面の円形・方形のメダリオンは空白のまま残されている点だ。西洋建築では、ニッチには彫像がおかれ、メダリオンには文字や徽章、建物にゆかりの人物の肖像などが刻まれるのが一般的である。空白のニッチやメダリオンはいかにも未完成の趣きで、ある種の違和

感を拭えない。片山は文化財の殿堂を飾る意匠を考えあぐねたのではないか、との意見もある。

これに対し、明治四十三年（一九一〇）に竣工した同じく片山による迎賓館赤坂離宮（国宝 旧東宮御所）では一転して、西洋建築の敷き写しとも異なる具象的なモチーフが建物の内外を彩っている。正面のペディメントの装飾と青銅製の彫刻は、鎧兜を身につけ軍旗を背負った武人像で、同種のモチーフは室内にも散見される。その意図するところは、国内外に近代日本の国力・軍事力を印象づけることにあったという。一方、東宮妃の住まう部屋の内部には、メダリオンに繁栄と継承の象徴であるつがいの鳥が描かれる。いずれからも近代日本が国家と皇室に求めた強い政治的メッセージを読みとることができる。

迎賓館は、その規模と完成度から日本近代建築の集大成と評価され、その歴史的意義により近代建築として唯一国宝に指定されている。西洋建築に求められた機能と様式、そして象徴性の到達点をこの迎賓館にみるならば、なら仏像館は、まさに出発点ということができよう。

ニッチやメダリオンに当初どのような意匠が計画されていたのか、またはいなかったのか。いまとなっては知る由もないが、この建物に極端に政治的なメッセージが組み込まれなかったことはむしろ好ましく感じられる。春日山を背後にひかえた丘陵に建つ可憐な姿、そして空白のニッチやメダリオンにみる未完成の初々しさこそ、明治時代中期の奈良に誕生し、以降百二十年にわたる文化財の保存と公開という新たな世界を切り拓いていった「仏像の館」にふさわしいように思われてならない。



なら仏像館（重要文化財 旧帝国奈良博物館本館） 竣工時

パリ・オペラ座（ガルニエ宮）

【表紙写真解説】

人勝残欠雑張　一張

正倉院宝物　北倉
縦三一・〇cm
横三一・〇cm

人勝とは、中国で人日（正月七日）に行われた無病息災や子孫繁栄を願う行事に用いられた飾り物のこと。人日は、正月一日から七日までを、それぞれ鶏、狗、猪、羊、牛、馬、人に割り当てたもので、後漢の時代には、一日には門に鶏を描き、七日には人形を帳に貼る習俗があったという。中国・梁の宗懍撰『荊楚歳時記』によれば、人日には色絹や金箔を人や動物、植物の形に切って飾りとしたものを屏風に貼ったり、髪飾りに用いたり、あるいは贈答したりすることが行われていたようで、その後唐代には宮廷に取り入れられ、皇帝から王公以下に人勝を賜ることも行われた。

本品は、天平宝字元年（七五七）閏八月二十四日に東大寺に献納された人勝二枚を明治時代の宝物整理に際し一枚の裂に貼り合わせたもので、十六文字の吉祥句や人物（童子）、動物（犬か）、植物、あるいは花柄に切られた文様などが残っている。残念ながら原形は留めていないものの、一過性の風流飾りとして作られたものが後世まで残る例は稀であり、古代の年中行事を今に伝える貴重な作例として注目される。

清水　健（当館学芸部主任研究員）

◎天神坐像（與喜天満神社）

◉十一面観音像（当館）

策彦周良墨跡 探春（慈済院）

◎海松円文鞍（手向山八幡宮）

行基舎利瓶残欠（当館）

出陳一覧

名品展 珠玉の仏教美術

12月9日（火）～平成27年1月12日（月・祝）　西新館

【彫刻】

◎薬師如来坐像　当館
◉薬師如来立像　元興寺
◎十一面観音菩薩立像　地福寺
弥勒菩薩立像　林小路町自治会
◎不動明王坐像　正寿院
◎広目天立像　興福寺
◉法相六祖坐像（伝神叡）　興福寺
◎天神坐像　與喜天満神社

【絵画】

◉十一面観音像　当館
不空羂索観音像　当館
不空羂索観音像　個人
◎観音経絵　本土寺
◎山王宮曼荼羅　当館
日吉山王垂迹神曼荼羅　曼殊院
富士参詣曼荼羅　矢田原第三農家組合
伊勢両宮曼荼羅　正暦寺
雨宝童子像　個人
藤原鎌足像　当館
心経会本尊　談山神社
請雨経曼荼羅　個人

【書跡】

◉金光明最勝王経（紫紙金字）　当館
◎灌頂随願往生経（石川年足願経）　当館
阿闍世王経 巻下（五月一日経）　当館
仏母般泥洹経　当館
◉法華経 法師功徳品（慈光寺経）　慈光寺
◎慈円僧正懐紙　当館
◉禅院額字 前後　東福寺
◎兀庵普寧墨跡　当館
◎清拙正澄墨跡 法語　当館
策彦周良墨跡 探春　慈済院
中臣祐賢和歌懐紙（春日懐紙）　当館

【工芸】

扁額　個人
扁額　海住山寺
扁額　海住山寺
◉桐蒔絵手箱及び内容品　熊野速玉大社
◎海松円文鞍　手向山八幡宮
◎奚婁鼓胴　龍田大社
◎冠笥　個人
◉籠手　春日大社
熊野三所権現懸仏　個人
蔵王権現懸仏　個人
十一面観音三尊懸仏　当館
◎阿弥陀如来鏡像（松喰鶴鏡）　当館
蔵王権現鏡像　当館
男神対向鏡像　当館
◎十二尊鏡像（瑞花双鳥文八稜鏡）　細見美術財団
春日宮曼荼羅彩絵舎利厨子　個人
◎四方殿舎利厨子　能満院
◉経箱　大長寿院
◉牛皮華鬘（奴号・留号）　当館
◎透彫尾長鳥文華鬘　細見美術財団
◎透彫華鬘　神照寺
螺鈿草花文合子　當麻寺西南院
蓮華形香炉　個人
蓮華形柄香炉　真光寺
梵字宝相華文象嵌香炉　当館
◎釣燈籠　当館
水瓶　当館
信貴形水瓶　当館
◎仏餉鉢　金剛峯寺
◎鉢　都々古別神社
念珠（菩提子）　当館
持蓮華　西光寺
一面器　西大寺
金剛盤　当館
閼伽桶　当館
羯磨　当館
輪宝　当館
四橛　当館

【考古】

軒丸瓦・軒平瓦〔奈良県 法隆寺若草伽藍出土〕　法隆寺
軒丸瓦〔奈良県 山田寺跡出土〕　当館
軒丸瓦・軒平瓦〔奈良県 法隆寺 西院伽藍出土〕　法隆寺
軒丸瓦・軒平瓦〔奈良県 山村廃寺出土〕　当館
蓮華文鬼瓦〔奈良県山村廃寺出土〕　京都国立博物館
◎山城忌寸真作墓誌　当館
行基舎利瓶残欠　当館
◎佐井寺僧道薬墓出土品　当館
◎青磁牡丹唐草文深鉢〔奈良県 正暦寺出土〕　正暦寺
白浜経塚出土品　当館
金鶏山経塚出土品　当館
＊鬼面文鬼瓦、石製相輪、風鐸、軒丸瓦・軒平瓦〔島根県 山代郷北新造院跡出土〕
島根県立八雲立つ風土記の丘展示館
＊軒丸瓦・軒平瓦〔島根県 出雲国分寺出土〕　当館
石製相輪〔奈良県 山村廃寺出土〕　当館
鬼面文鬼瓦〔奈良県 大安寺出土〕　個人
＊軒丸瓦・軒平瓦〔宮城県 黄金山産金遺跡出土〕　個人（涌谷町寄託）
＊「天平」銘丸瓦〔宮城県 黄金山産金遺跡出土〕　個人（涌谷町寄託）
＊「天平」銘宝珠〔宮城県 黄金山産金遺跡出土〕　個人（涌谷町寄託）
砂金（涌谷町産）　涌谷町
軒丸瓦・軒平瓦〔奈良県 東大寺出土〕　当館

＊は考古資料相互活用促進事業による出品
※◉＝国宝、◎＝重要文化財

名品展 中国古代青銅器

（坂本コレクション）　青銅器館

中国古代の商（殷）から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

爵、觚、觶、長頸尊、觚形尊、斝、方彝、卣、瓿、罍、鼎、甗、鬲、簋、盨、豆、盤、匜、盉、壺、鐘、鈁、扁壺、蒜頭壺、竈、鍑、博山炉、鎮子、鐃、錞于など（すべて当館）

※青銅器館のみの観覧は無料です。
ただし、10月23日（木）～11月12日（水）の間は休館いたします。

鈁〔中国古代青銅器〕（当館）

❖ 正倉院学術シンポジウム2014 ❖

「正倉院宝物に日本文化の源流をみる」

◆日　　時：平成26年11月2日（日）　13時～17時30分
◆会　　場：奈良県新公会堂　レセプションホール
◆参加定員：250名（事前申込制、定員に達し次第締め切り）
◆主催：奈良国立博物館　◆後援：読売新聞社

○申し込み方法：往復はがきによる、郵送に限ります。
■［正倉院学術シンポジウム聴講希望］と明記の上、［氏名（ふりがな）・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢］を記入してください。
■返信用はがきには宛名を記入してください。はがき1枚につき申込者1名としてください。
○応募締切：10月24日（金）必着
※当日入場の際には、第66回正倉院展の観覧券が必要です。（半券・国立博物館パスポート可）
【応募・お問い合せ先】　奈良国立博物館 学芸部教育室 TEL.0742-22-4464

❖ イベント情報 ❖

ーもっと知りたい！ 奈良博の魅力ー
「ボランティア・フェスタ」開催

当館での多彩なボランティア活動を皆様に知っていただくとともに、お客様への日ごろの感謝をこめて、「ボランティア・フェスタ」を開催いたします。当館ボランティアとのふれあいの中で、今までとは違った奈良博の魅力に気づいていただけると思います。

◆日程：平成26年12月14日（日）
※当日は、「奈良マラソン2014」開催日につき、周辺道路では交通規制が行われます。ご来場の際は、ご注意いただきますようお願いいたします。

◆時間：10:00～16:00
◆参加費：無料（ただし、展示会場では観覧券が必要です）
※他館などでボランティア活動をしている方は、展示会場も無料でご覧いただけます。新館の受付で、団体名等をご記入ください。
※詳細は、当館ホームページの「催し物」をご覧ください。

❖ ボランティア解説 ❖

「正倉院展のみどころ」

正倉院展会期中、当館ボランティアがスライドを使用して展覧会のみどころを分かりやすく解説いたします。ご鑑賞にあわせて、ぜひお立ち寄りください。

◆毎日　①10:00～ ②11:00～ ③12:00～ ④13:30～ ⑤14:30～
※10/25、11/1、11/3、11/8は公開講座等のため、④と⑤は中止
※所要時間　約30分
◆当館講堂にて（各回、20分前より開場）
※満席になり次第締切とさせていただきます。
◆聴講無料　◆先着194名（事前申込み不可）

平成27～29年度「奈良国立博物館ボランティア」募集

平成27年4月から平成30年3月まで、当館で活動していただくボランティアを募集いたします。3年に一度の募集です。
この機会にふるってご応募ください。

◆受付期間：平成26年12月1日(月)～12月26日(金)
◆募集人数：150名
【お問い合わせ先】
奈良国立博物館 ボランティア室
TEL. 0742-94-5122
※詳細は、当館ホームページをご覧ください。

仏像写真展『大和の仏たち』関連イベント
仏像を撮ってみよう！

◆日程：平成26年12月21日（日）
◆時間：第1回 13:00～14:30　第2回 15:00～16:30
※各回90分　往復はがき郵送による事前申込制
※応募者多数の場合は抽選になります
◆各回定員：10名　　◆参加費：無料
※詳細は、当館ホームページの「催し物」をご覧ください。

❖ 公開講座 ❖

■ 天皇皇后両陛下傘寿記念 第66回 正倉院展
10月25日（土）　「鳥毛立女屏風と唐時代絵画」
板倉 聖哲氏（東京大学東洋文化研究所教授）
11月3日（月・祝）「正倉院宝物の科学的調査」
中村 力也氏（宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員）
11月8日（土）　「正倉院の武器・武具」
岩戸 晶子（当館学芸部研究員）

※各回とも13時30分より15時まで（13時より講堂入口で入場券を配付します）。定員194名。当館講堂にて。聴講無料。（※入場の際には「第66回 正倉院展」の観覧券、もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください）

❖ サンデートーク ❖

毎月1回、当館の研究員や専門家がとっておきのお話をいたします。聴講は無料、展覧会の観覧券等の提示は必要ありません。事情により話題内容が変わることもありますので、詳しくは当館ホームページをご参照の上お出かけ下さい。

・10月5日（日）　14時～15時30分
「仏像調査からわかること　その3」
岩田 茂樹（当館学芸部上席研究員）
・11月16日（日）　14時～15時30分
「文化財を科学する」
鳥越 俊行（当館学芸部主任研究員）
・12月21日（日）　10時30分～12時
「文化財を撮る ー信頼のおける写真を求めてー」
佐々木 香輔（当館学芸部資料室員）
◆場所：当館講堂（入場は開始30分前）
◆定員：定員194名（先着順）

◆奈良国立博物館賛助会

平成26年9月30日現在、一般会員（個人）44名、一般会員（団体）20団体、特別会員4団体、特別支援会員5団体のご入会をいただいております。
【一般会員（個人）】　在原 和子様（平成26年9月ご入会）

◆キャンパスメンバーズ

平成26年9月30日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。
大阪大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都産業大学、京都産業大学附属高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、京都文教大学・京都文教短期大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良学園大学・奈良文化女子短期大学部・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学部　（以上、五十音順）

展示品のみどころ

鬼面文鬼瓦

山代郷北新造院（来美廃寺）出土
瓦製　縦28.8cm　横35.5cm
奈良時代（８世紀）
島根県立八雲立つ風土記の丘所蔵

昨年、60年ぶりとなる平成の大遷宮で注目を集めた出雲大社のお膝元、島根。弥生時代や古墳時代は大陸や朝鮮半島との交流の窓口として先進的で独特な文化を花開かせた。

しかし、仏教が伝来した6世紀後半以降、強い神社の勢力が影響したためか、出雲国にはなかなか寺院が造営されず、白鳳寺院の空白地域となっている。これは、上淀廃寺をはじめ数々の白鳳寺院が造営された鳥取地域とは対照的だ。

奈良時代に編纂された風土記のうち、最も完全に近い形で現在に伝わる『出雲国風土記』には、出雲国東部の意宇郡（現在の松江市付近）について、郡内の山代郷に二つの新造院という寺院があり、そのうちの一つ、北新造院は在地の豪族である日置君目烈が建立したと記されている。以前から「来美廃寺」と呼ばれていた寺院跡をこの北新造院にあてる説があったが、平成8年（1996）からの発掘調査によってそれが確認された。7世紀末に金堂が造立されたこの北新造院は出雲地域で最も古い寺院であることもわかった。

金堂からは三尊像を据え付けた台石、寺地全体から屋根を飾った瓦や塔の屋根を装飾する石製の相輪・銅製の風鐸等多くの遺物が出土し、本品もそのうちの一つである。

考古資料相互活用促進事業によって今回展示するこの鬼瓦は、奈良時代半ばの東大寺造営時に新たにデザインされた鬼面文を模倣して製作されたもので、8世紀後半に金堂の周りに建てられた瓦葺建物に使用されたものであろう。奈良の都の最新スタイルが採用されるには、都の瓦デザイナーが出雲まで出かけたのか、それとも現物のメモやスケッチが奈良から出雲に届けられたのか…遠く離れたように思える古代の奈良と出雲ながら、この鬼瓦からいろいろな想像がかきたてられる。

岩戸 晶子（当館学芸部研究員）

◆（12月9日～　名品展「珠玉の仏教美術」にて展示）

扁　額

木製　漆塗　彩色
縦84.5cm　横43.2cm　奥行10.2cm
鎌倉時代（13世紀）
個人蔵

かつて奈良県天理市の石上神宮の南方に内山永久寺と称される大寺院が存在した。明治初期の神仏分離によって寺勢を失い、寺堂は破却されて今は池を残すのみであるが、かつては東の山を背に壮大な伽藍が建ち並んでいた。

本品はその永久寺にて用いられた木製（ヒノキ材）の扁額で、永久寺の院号である「金剛乗院」の文字が籠字で額面に記されている。この文字は扁額の字を集成した南北朝時代頃成立の文献である『扁額集』に収められた額字と近似しており、これに従えば、落筆したのは弘誓院流の祖で能書家として知られた藤原教家で、宝治元年（1247）9月の揮毫とわかる。なお、奈良文化財研究所が実施した年輪年代測定では、1248年前後の伐採年代が得られており、『扁額集』の記述と符合している。また『扁額集』には、中心的な堂宇である真言堂に用いられたことが記されており、永久寺の歴史を考える上でも重要であることがわかる。

本品は永久寺の子院の一つ福寿院ゆかりの家に伝わったもので、昭和33年（1958）刊行の『天理市史』に写真のみが掲載されるが、その後は長らく所在すら把握されていなかった。近年改めてその存在が確かめられることとなり、その重要性が明らかとなった。

今年は平安時代・永久二年（1114）に鳥羽院の勅願によって永久寺が創建されてから900年の節目に当たる。記念の年の掉尾にかつて永久寺の伽藍を飾った扁額が初めて公開されることで、失われた大寺院の存在が再び広く知れ渡ることを願って止まない。

清水　健（当館学芸部主任研究員）

◆（12月9日～　名品展「珠玉の仏教美術」にて展示）

開館日時（10月～12月）

■開館時間／午前9時30分～午後5時
・12月17日は午後7時まで
・正倉院展会期中（10月24日～11月12日）
　月曜日～木曜日:午前9時～午後6時
　金･土･日曜日、11/3(祝):午前9時～午後7時
※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

■休館日／毎週月曜日
・ただし、10月13日(祝)、11月24日(祝)、12月29日(月)は開館し、10月14日(火)、11月25日(火)は休館
※正倉院展の会期中は無休〔青銅器館は休館〕

観覧料金　名品展・特別陳列

	一　般	大学生	高校生以下
個　人	520円	260円	無　料
団　体	410円	210円	無　料

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。
※青銅器館は無料になります。　※なら仏像館は、改修工事のため休館中です。

観覧料金

天皇皇后両陛下傘寿記念 第66回 正倉院展

	一　般	高校･大学生	小･中学生
個人（当日）	1,100円	700円	400円
前売･団体	1,000円	600円	300円
オータムレイト	800円	500円	200円

11月12日(水)は天皇皇后両陛下の傘寿を慶祝して入館無料です。
※団体は20名以上です。
※オータムレイトチケットは、閉館の1時間30分前より入場できる当日券です（当館当日券売場のみで、閉館の2時間30分前から販売します）。購入者には記念品を進呈します。
※障害者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。

〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅･近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社･国立博物館」下車
※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等（有料）をご利用ください。

奈良国立博物館
Nara National Museum

『奈良国立博物館だより』は、1･4･7･10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は92円分の切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

〒630-8213 奈良市登大路町50（奈良公園内）ハローダイヤル 050－5542－8600　ホームページ（PC用）http://www.narahaku.go.jp/　（携帯用）http://www.narahaku.go.jp/mobile/